

令和元年度「読書に関する調査」の結果

令和 2 年 3 月
福島県教育委員会

【調査結果概要】

- 令和元年11月（高校生のみ12月）の1か月間における本県児童生徒の平均読書冊数は以下のとおりである。
 - 《小学生》 11.2冊（前年度 12.0冊）
 - 《中学生》 2.6冊（ " 2.7冊）
 - 《高校生》 1.7冊（ " 1.7冊）
- 1か月間の読書冊数が「0冊」と回答した児童生徒の割合は以下のとおりである。
 - 《小学生》 1.5%（前年度 1.4%）
 - 《中学生》 17.7%（ " 14.7%）
 - 《高校生》 41.9%（ " 39.8%）
- 調査を開始した平成16年度からの調査結果の推移（高校生は平成21年度から）を見ると本県児童生徒の平均読書冊数は、**校種による差はあるものの確実に増加している**ことが見て取れる。
 - 《小学生》 読書量がこの15年間で**約3倍に増加**
平成22年度以降平均読書冊数が**10冊以上をキープ**
 - 《中学生》 平成21年度以降、平均読書冊数が**2.5冊以上をキープ**
 - 《高校生》 平成28年度以降、平均読書冊数が**1.5冊以上をキープ**
- 中学生、高校生になると読書量が減り、不読者が増加する傾向があることから、今後、更にそれぞれの**発達段階や学習・生活環境等に即したきめ細かな読書指導**を展開していくことで、読書に親しむ児童生徒を一人でも多く増やしたい。

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く考えるなど、生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。県教育委員会においては、これまでの施策の成果と課題を踏まえ、平成27年2月に第三次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定したが、施策を評価するとともに今後の施策へ生かすため、本県児童生徒の読書に関する調査を実施している。

- ・第1回調査：平成16年10月実施
- ・第2回調査：平成18年4月実施
- ・第3回調査：平成19年11月実施（※ 以後、毎年11月に実施することとする。）
- ・第15回調査：令和元年11月実施

※ 高等学校においても12月に同様の調査を実施した。（平成21年度から実施）

(2) 調査項目

- 各学年における児童生徒の1か月の読書冊数（学校及び家庭等での読書冊数の合計）
- 読書しない理由に関するもの（最も当てはまるものを1つ選択）
- 読書するきっかけに関するもの（最も当てはまるものを1つ選択）
- 本を手に入れた方法に関するもの（最も当てはまるものを1つ選択）
- その他（第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に係る各学校における取組状況について）

(3) 調査対象校及び調査人数について

- ア 調査対象校：県内公立小・中学校（義務教育学校を含む。）※ 休校、臨時休業を除く。
全ての県立高等学校（分校を含む。）
- イ 調査人数：各学年1学級を選定する。（全ての児童生徒に調査することも可）

小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
調査人数	10,458	10,637	11,069	11,143	11,512	11,714	66,533

（単位はいずれも人）

中学校	1年生	2年生	3年生	合計
調査人数	8,305	8,156	8,543	25,004

高等学校	1年生	*2年生	合計
調査人数	3,477	3,519	6,996

※ 2年生の人数には相馬農業高等学校飯館校3年生を含む。

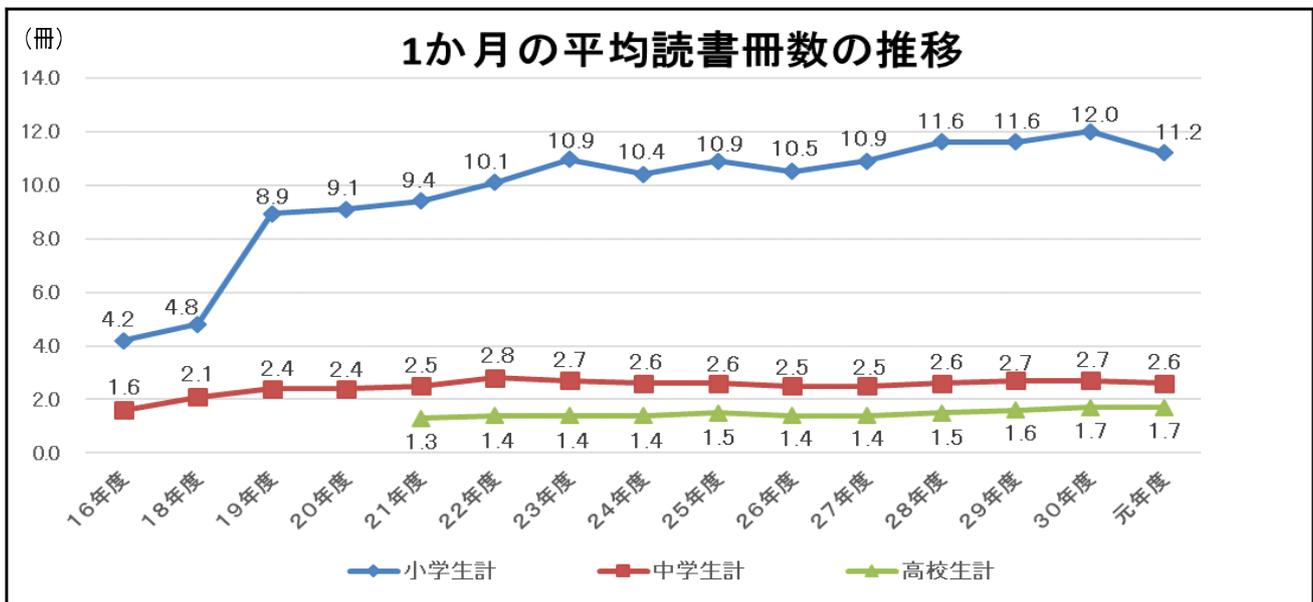
小学校：424校（義務教育学校前期課程を含む。）

中学校：216校（義務教育学校後期課程を含む。） 高等学校：89校

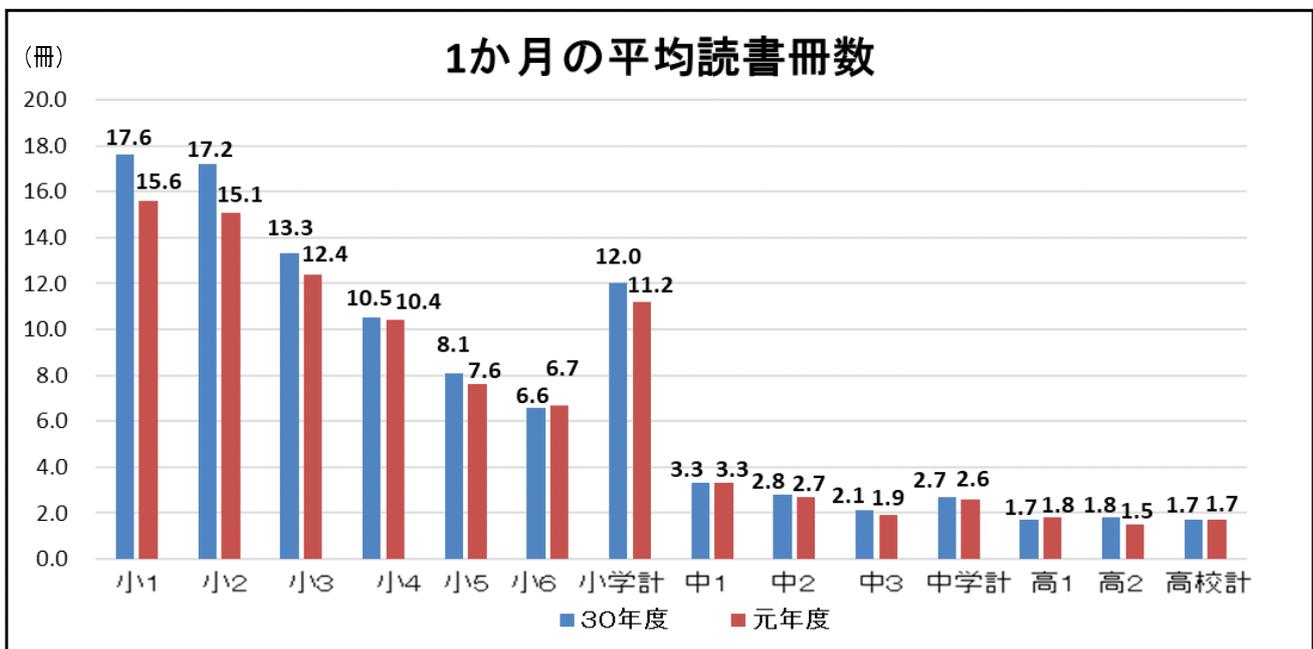
2 1か月の平均読書冊数について（【グラフ1】及び【グラフ2】参照）

- 令和元年11月調査（高校生は12月調査）における1か月の平均読書冊数は、小学生全体で11.2冊、中学生全体で2.6冊、高校生全体で1.7冊であった。前年度調査と比較すると、小学生は0.8冊減、中学生は0.1冊減、高校生は同じであった。
- 1か月の平均読書冊数は、小学校1年生の15.6冊が最高であり、小・中・高と学年が上がるにしたがって減少している。
- 小学生全体では「8冊以上」と回答した児童の割合が50.9%（前年度は52.7%）と半数を超えている。中学生全体では「1冊」～「3冊」と回答した生徒の割合が高く、全体の約60%を占めている。高校生全体では「0冊」と回答した生徒の割合が41.9%と最も高いが、中・長期的に見ると改善傾向にある。
- 前年度調査に比べ、台風19号等による被害が大きかった地域の学校において、読書冊数が減少傾向（特に小学校）にある。台風等による被害状況が、児童生徒の読書活動に影響を与えた可能性がある。

【グラフ1】



【グラフ2】



3 「0冊」と回答した児童生徒について【グラフ3】及び【グラフ4】参照）

- 「0冊」と回答した児童生徒の割合は、小学生が1.5%、中学生が17.7%、高校生が41.9%であり、前年度調査と比較すると、小学生が0.1%、中学生が3.0%、高校生が2.1%高くなっている。
- 「0冊」と回答した児童生徒の割合は、小学校1年生が0.5%と最も低く、高校2年生が44.5%と最も高い。小・中・高と学年が上がるにしたがって「0冊」と回答する割合が高くなっている。
- 「0冊」と回答した児童生徒の「読まない理由」の上位項目は以下のとおりである。

	「読まない理由」①	「読まない理由」②
小学生	雑誌やマンガのほうが好き	テレビ・ゲームなどのほうが楽しい
中学生	勉強・塾・宿題などで忙しい	雑誌やマンガのほうが好き
高校生	部活動等で時間がない	雑誌やマンガのほうが好き

・ 前年度調査では、「テレビ・ゲームなどのほうが楽しい」が全ての校種において読まない理由の上位となっていたが、今年度調査においては、「雑誌やマンガのほうが好き」が上位となった。

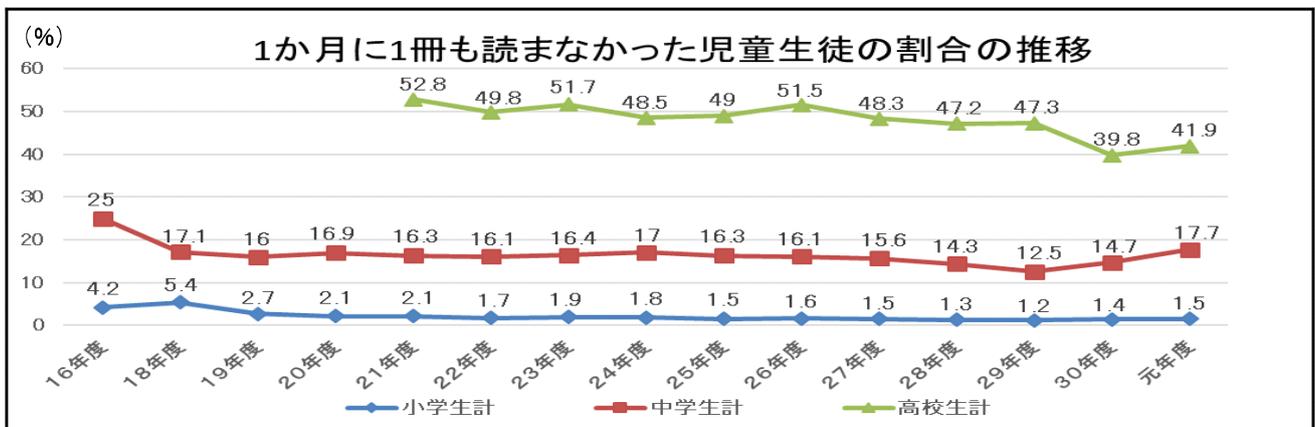
《その他》

- ・ 中学生においては、「スマートフォン・携帯などのほうが楽しい」が読まない理由の3位であり、若干の増加傾向にある。
- ・ 「本が嫌い」と回答する小・中学生、「読まなくても困らない」と回答する高校生がそれぞれ約1割程度いる。

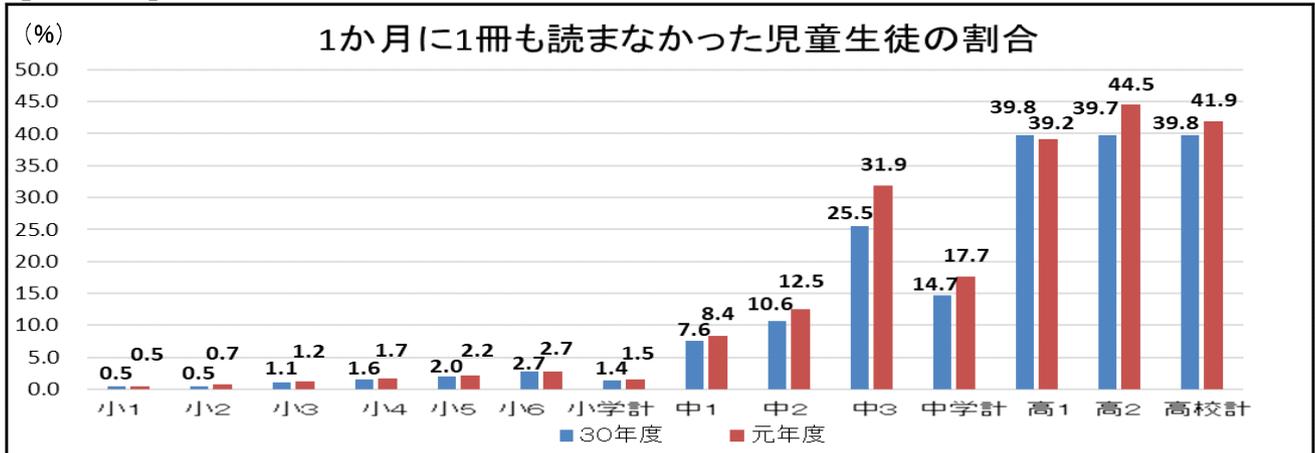
これらのことを鑑み、なお一層、子どもの読書への関心を高める取組を行っていく必要がある。その際、友人等の同世代の者とのつながりを生かし、子ども同士で本を紹介したり話合いや批評をしたりする活動を取り入れることや、本の世界への案内役となる学校司書の配置・活用等により、読書の楽しさや本のすばらしさを子どもたちに伝えていくこと等が考えられる。

また、スマートフォンの普及等、子どもを取り巻く情報環境が大きな変化を見せており、それらが子どもの読書環境にも影響を与えている可能性がある。スマートフォン等の利用と読書の関係等について、実態把握や分析を行い、子どもの実態やそれを取り巻く状況の変化を踏まえ、取組の充実・促進を図ることが望まれる。

【グラフ3】



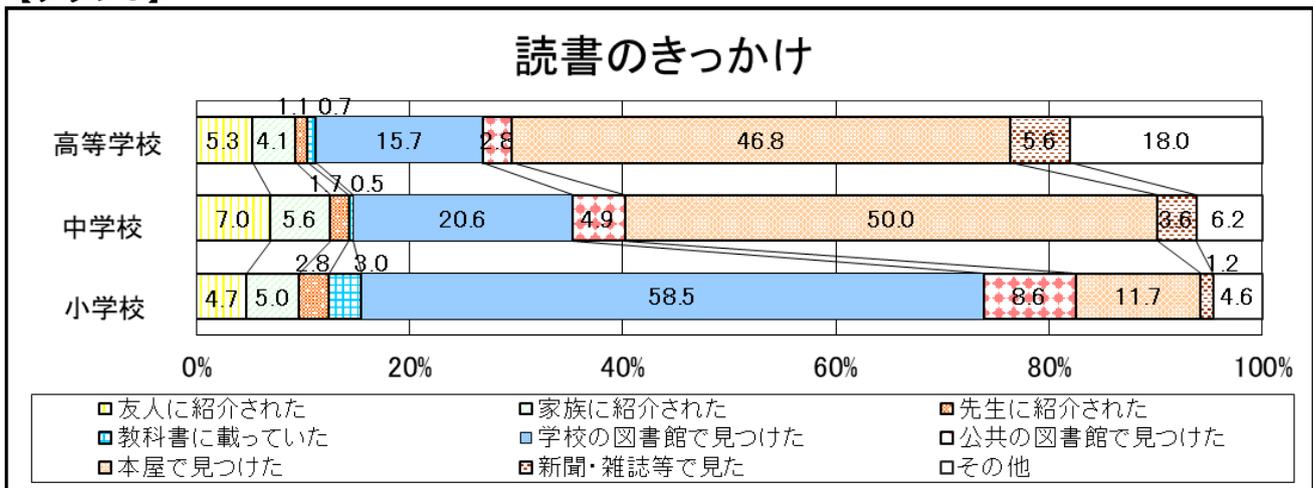
【グラフ4】



4 「読書のきっかけ」について（【グラフ5】参照）

- 小学校では、「学校の図書館で見つけた」と回答した児童の割合が全ての学年において最も高く、小学生全体では58.5%（前年度57.7%）を占める。これは、各学校において児童が学校図書館に足繁く通っている証であり、学校図書館の整備・充実が図られているものと考えられる。
- 中学校では、「本屋で見つけた」と回答した生徒の割合が全ての学年において最も高く、中学生全体では50.0%（52.3%）を占める。次に「学校の図書館で見つけた」と回答した生徒の割合が20.6%（19.3%）と続くが、前年度に比べてその割合が高くなっている。
- 高等学校においても中学校と同様の傾向が見られ、「本屋で見つけた」と回答した生徒の割合が最も高く、全体の46.8%（46.5%）を占めている。次に「その他」と回答した生徒が18.0%（16.9%）と続く。

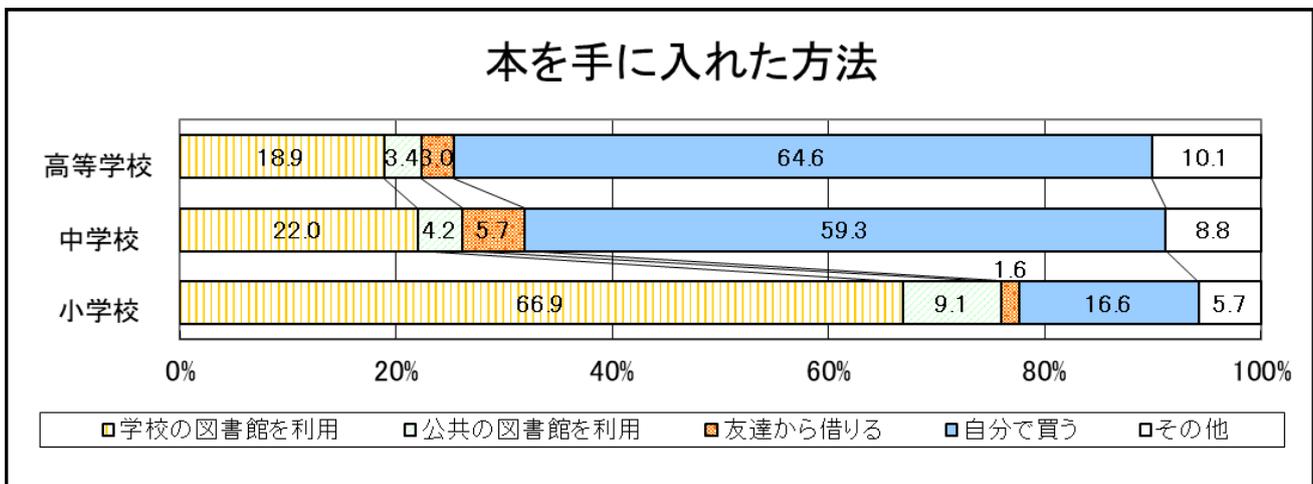
【グラフ5】



5 「本を手に入れた方法」について（【グラフ6】参照）

- 小学校では、「学校の図書館を利用」と回答した児童の割合が全ての学年において最も高く、小学生全体では66.9%（前年度65.9%）を占める。続いて「自分で買う」と回答した児童の割合が16.6%（17.0%）となっている。
- 中学校では、「自分で買う」と回答した生徒の割合が全ての学年で最も高く、中学生全体では59.3%（61.7%）を占める。続いて「学校の図書館を利用」と回答した生徒の割合が22.0%（20.9%）となっている。
- 高等学校においても中学校と同様の傾向が見られ、「自分で買う」と回答した生徒の割合が全ての学年において最も高く、高校生全体では64.6%（62.7%）で、「学校の図書館を利用」と回答した生徒の割合が18.9%（19.2%）となっている。
- 小・中学校で、「学校の図書館を利用」と回答した児童生徒の割合が前年度に比べて高くなっている。

【グラフ6】



6 第三次「福島県子ども読書活動推進計画」

各学校における読書活動等への取組状況

【小学校】	調査項目	実績値(%)			目標値
		29年度	30年度	31年度	31年度
	①多様な読書活動推進の取組を実施している学校の割合	100	100	100	100
	②本を1か月に1冊以上読んだ児童の割合	98.8	98.6	98.5	100
	③学校司書等を配置している学校の割合	—	69.2	76.7	100
	④読書ボランティアが参画している学校図書館の割合	81.3	80.6	79.0	100
	⑤公立図書館との連携を実施している学校の割合	82.6	81.7	83.3	100

【中学校】	調査項目	実績値(%)			目標値
		29年度	30年度	31年度	31年度
	①多様な読書活動推進の取組を実施している学校の割合	100	99.1	98.1	100
	②本を1か月に1冊以上読んだ生徒の割合	87.5	85.3	82.3	100
	③学校司書等を配置している学校の割合	—	69.1	80.1	100
	④読書ボランティアが参画している学校図書館の割合	18.4	18.0	16.7	100
	⑤公立図書館との連携を実施している学校の割合	37.1	45.6	47.2	100

【高等学校】	調査項目	実績値(%)			目標値
		29年度	30年度	31年度	31年度
	①多様な読書活動推進の取組を実施している学校の割合	94.4	100	100	100
	②本を1か月に1冊以上読んだ生徒の割合	52.7	60.2	58.1	100
	③学校司書等を配置している学校の割合	86.9	91.7	95.2	100
	④読書ボランティアが参画している学校図書館の割合	5.6	6.7	3.4	100
	⑤公立図書館との連携を実施している学校の割合	63.3	65.6	66.3	100

※数値は、「読書に関する調査」福島県教育委員会による。

本計画にそって、平成27年度から
おおむね5年間で子どもの読書活動を
推進する取組を進めます

平成31年度までに到達したい数値目標

項目	対象	実績値 (平成29-30年度)	平成31年度 目標値
多様な読書活動推進に 取り組んでいる学校の割合	小学校	99.8%	100%
	中学校	93.9%	100%
	高等学校	76.1%	100%
本を1か月に1冊以上読んだ 児童生徒の割合	小学校	98.5%	100%
	中学校	83.7%	100%
市町村における子ども読書活動 推進計画の策定率及び改定率	策定率	91.5%	100%
	改定率	11.1%	100%
公立図書館による学校図書館 への図書資料の貸出冊数	県立図書館	4,666冊	増 進
	市町村立図書館	140,976冊	増 進
学校司書等を配置している 学校の割合	小学校	24.7%	100%
	中学校	24.2%	100%
	高等学校	60.2%	100%
読書ボランティアが参画して いる学校図書館の割合	小学校	76.8%	100%
	中学校	13.2%	100%
公立図書館と連携している 学校の割合	小学校	74.4%	100%
	中学校	32.0%	100%
	高等学校	56.8%	100%
「子ども読書の日」月に子どもの読書活動 に関する事業を実施している市町村の割合		66.1%	100%

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」は、福島県教育委員会のホームページからごらんください。
福島県子ども読書活動推進計画

第三次 福島県子ども読書活動推進計画 概要版

ふくしまの
未来をひらく 読書の力

福島県は県民の皆さんとともに
子どもの読書活動を推進します

ふくしまから
はじめる。 読書の力
キビタン

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」は、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(平成26年5月)」及びこれらでの取組や成果と読書を通して、福島県における子どもの読書活動の推進に関する効果的な方法や実践的な取組を示したものです。

平成27年2月 福島県教育委員会

【資料編】子どもたちの読書活動を更に推進していくために

今回の調査結果から、今年度で計画最終年度となる、第三次「福島県子ども読書活動推進計画」（以下「第三次計画」という。）の基本方針1「子どもが読書に親しむ機会の充実」については前年度に引き続き、数値目標を達成、若しくはそれに近づく結果が出ており、これまでの取組の成果が数値となって現れたものとする。また、基本方針2「子どもの読書環境の整備と充実」、基本方針3「子どもの読書活動についての理解の促進」については、引き続き取組の更なる充実・推進が求められる。

第三次計画の最終年度を迎え、今後、県が新たに策定した第四次「福島県子ども読書活動推進計画」（以下「第四次計画」という。）に基づいた読書活動推進に取り組んでいくこととなるが、以下、第三次計画下における推進内容、学校における現状等を踏まえた上で、第四次計画を推進していただきたい。

1 基本方針1「子どもが読書に親しむ機会の充実のために」

◎ 小学校・中学校・高等学校における読書活動の推進

(1) 読書活動の充実（読書センターとしての機能）

- 朝読書等の全校一斉の読書活動の設定・継続を図ることにより、読書習慣の定着を促進する。特に高等学校においては、「読書の時間がない」という理由等での不読者をなくすため、学校において朝読書や一斉読書等の時間を確保し、読書に親しむ機会を設けるよう努める。
- 友人同士で本を薦め合うなど、子どもの読書への関心を高める取組を充実させる。
→ 読書会、ブックトーク、書評合戦（ビブリオバトル）、「子ども司書」等
- 発達段階ごとの効果的な取組を推進する。
(小学生期) 多くの本を読んだり、読書の幅を広げたりする読書等
(中学生期) 内容に共感したり、将来を考えたりする読書等
(高校生期) 知的興味に応じた幅広い読書等



《参考》全校一斉の読書活動実施状況（複数回答可）

※ 以下、表中の数値は%。複数回答可の調査項目については、合計が100%にならない。

選 択 肢	小		中		高	
	H30	R元	H30	R元	H30	R元
◎ 実施あり	97.7	95.0	88.0	86.6	28.9	25.8
ア 始業前	94.5	92.3	96.9	96.3	88.5	82.6
イ 授業中	1.4	3.5	2.6	0.5	3.8	8.7
ウ 昼休み・放課後	10.0	11.2	3.1	3.7	0	0
エ その他	2.6	6.0	0.5	2.1	7.7	8.7

《参考》多様な読書活動の実施状況について（複数回答可）

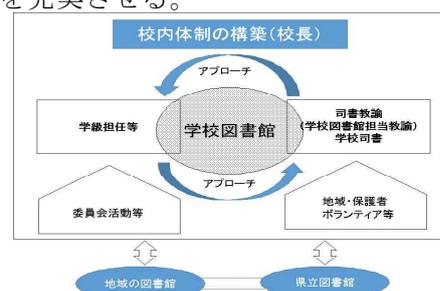
選 択 肢	小		中		高	
	H30	R元	H30	R元	H30	R元
◎ 実施あり	100.0	100.0	99.1	98.1	100.0	100.0
ア 図書の読み聞かせ・ブックトーク	97.0	96.7	34.0	33.0	18.9	15.7
イ 読書感想文コンクールの実施	68.8	71.5	63.7	71.7	18.9	27.0
ウ 必読書・推薦図書コーナーの設置	83.8	83.3	85.1	85.4	77.8	76.4
エ 目標とする読書量の設定	59.7	57.8	22.3	19.8	6.7	5.6
オ その他	32.2	30.7	27.4	27.4	47.8	49.4

(2) 学校図書館を活用した学習活動の充実（学習・情報センターとしての機能）

- 各教科等の学習を通し、学校図書館を活用した記録、説明、批評、レポート作成、プレゼンテーション等の言語活動の充実を努める。
- 教職員を対象とした学校図書館利活用のための研修会を充実させる。

(3) 校内推進体制の確立

- 全ての教育活動において学校図書館の計画的な活用が図られるよう、学校図書館を活用した学習活動の年間指導計画を作成する。
- 司書教諭や学校司書、教職員が連携し、保護者や読書ボランティア等の協力を得ながら、学校全体で読書活動を推進できる体制の整備を行う。



2 基本方針2「子どもの読書環境の整備と充実のために」

◎ 学校図書館の整備・充実

(1) 「学校図書館図書整備等5か年計画」(平成29年度からの5年間 文部科学省)の更なる推進

① 学校図書館図書の整備

- 各学校は、学校図書館図書標準の達成に向けた学校図書館資料の計画的な整備と情報が古くなった図書等の廃棄、更新を進める必要がある。

学校図書館図書の整備

各学校における学校図書館図書標準の達成を目指すのに加え、児童生徒が正しい情報に触れる環境の整備の観点から、古くなった本を買い替えることを促進します。

予算措置：単年度約220億円（5年間計約1,100億円）

② 学校図書館への新聞配備

- 学校図書館への新聞配備を進める。

学校図書館への新聞配備

児童生徒が現実社会の諸課題を多面的に考察し、公正に判断する力等を身に付けることの重要性に鑑み、発達段階に応じた学校図書館への新聞の複数紙配備を図ります。

※ 小学校1紙、中学校2紙、高等学校4紙を目安として想定

予算措置：単年度約30億円（5年間計約150億円）

③ 学校司書の配置

- 学校図書館の環境整備並びに児童生徒の読書活動及び学習活動への支援等、児童生徒と本を結ぶ役割を期待される学校司書の小中学校への更なる配置が求められている。市町村教育委員会においては「学校図書館図書整備等5か年計画」による地方財政措置が講じられていることを踏まえ、学校図書館の現状把握と、それに基づく適切な予算措置を行い、学校司書の配置を計画的に進めることが望まれる。



学校司書の配置

学校図書館の日常の運営・管理や、学校図書館を活用した教育活動の支援等を行う、専門的な知識・技能をもった学校司書の更なる配置拡充を図ります。

予算措置：単年度約220億円（5年間計約1,100億円）

※ 小・中学校に学校司書をおおむね3校に2名程度配置することが可能な規模を措置

※ 地方財政措置は、用途を特定しない一般財源として措置されている。したがって、各市町村等において、予算化が図られることによって、はじめて図書や新聞の購入費や、学校司書の配置のための費用に充てられることになる。

※ 福島県においては、以下のように小・中学校への学校司書の配置が進んでいるが、全体の約8割が非常勤の学校司書であり、複数の学校を掛けもち、1校における勤務日数や時数が限られているケースが少なくない。学校図書館の運営の改善・向上を図り、児童生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、学校司書の配置拡充（配置日数・時数の改善等を含む。）が求められる。

《参考》公立小・中学校における学校司書の配置状況

選 択 肢		小		中	
		H30	R元	H30	R元
◎	配置あり	69.2	76.7	69.1	80.1
ア	常勤	17.7	17.8	24.0	22.0
イ	非常勤	82.3	82.2	76.0	78.0



(2) その他

① 学校図書館の情報化・機能の充実

- 学校図書館蔵書のデータベース化、学校図書館のインターネット接続環境等の様々な情報資源にアクセスできる環境の整備、公立図書館等とのネットワークの構築を図る。
- 学校図書館の図書資料や新聞を活用した授業づくりの実践例を参照する。



《参考Webサイト》

☆東京学芸大学サイト「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」

☆日本新聞協会NIEサイト「新聞を活用した教育実践データベース」

「新聞社の『ワークシート』活用してみませんか？」

《参考》公立図書館との連携状況（複数回答可）

選 択 肢		小		中		高	
		H30	R元	H30	R元	H30	R元
◎	実施あり	81.7	83.3	45.6	47.2	65.6	66.3
ア	公立図書館資料の学校への貸し出し	88.4	89.0	76.8	75.5	98.3	96.6
イ	公立図書館との定期的な連絡会の実施	8.2	9.1	14.1	11.8	0	0
ウ	公立図書館司書等による学校への訪問	24.1	23.2	33.3	27.5	0	1.7
エ	公立図書館との資料情報ネットワークシステムの構築	9.1	8.5	15.2	19.6	5.1	6.8
オ	その他	15.0	13.0	8.1	6.9	10.2	5.1

② 効果的な学校図書館の運営と特色ある環境づくり

◇ 図書委員会等の児童生徒の活動を活用した学校図書館運営

- ・ ポスターづくりや読書クイズ、お薦め本の紹介、読み聞かせ会等のイベントの実施や新刊本の受け入れ活動、図書の修理等、子どもたちによる自主的な図書館運営の実践を進める。

◇ 学校図書館における多様な読書ボランティアの活用

- ・ 定期的な読み聞かせや本の修理、書架の整理、掲示や展示の環境づくり等、保護者や地域と連携した多様な読書ボランティアの活用を推進する。
- ・ 読書ボランティアの活用については、以下のとおり、主に小学校において進んでおり、特に「読み聞かせ」の支援が圧倒的に多い。「読み聞かせ」は、小学校のみならず、中学校や高等学校においても有効な読書活動の一つであることから、中学校・高等学校においても読書ボランティアを活用し、読み聞かせ等を実施することも選択肢の一つとしたい。



《参考》ボランティアの活用状況（複数回答可）

選 択 肢		小		中		高	
		H30	R元	H30	R元	H30	R元
◎	実施あり	80.6	79.0	18.0	16.7	6.7	3.4
ア	配架や貸出・返却業務等図書館サービスに係る支援	18.7	20.6	23.1	41.7	33.3	0
イ	学校図書館の書架見出し、飾り付け、図書の修繕等の整備に係る支援	46.3	48.4	59.0	63.9	16.7	0
ウ	読み聞かせ、ブックトーク等読書活動の支援	95.7	93.1	46.2	36.1	66.7	100.0
エ	学校図書館の地域開放の支援	2.0	1.5	0	2.8	0	0
オ	その他	2.3	2.7	0	5.6	0	0

◇ 心の居場所としての機能の充実

- ・ 学校図書館を、子どもが安心して自由に読書ができる、自分だけの時間を過ごすことができる、更には、異学年との関わりをもつことができる校内の心の居場所としたい。いつでも開いている図書館、学校司書等、人がいて本や読書を介在して話や相談ができるような図書館の実現を目指す。



3 基本方針3「子どもの読書活動についての理解の促進のために」

◎ 推進のための普及や啓発

- ・ 「子ども読書の日（4月23日）」、「こどもの読書週間（4月23日～5月12日）」、「読書週間（10月27日～11月9日）」をはじめ、各種通信や学校ホームページ等、広報媒体により読書活動に関する取組を家庭や地域に発信する等、普及や啓発に努める。

《2020年読書週間について》

- 「第62回こどもの読書週間」4月23日（木）～5月12日（火）

標語「出会えたね。とびっきりの1冊に。」

- 「第74回読書週間」10月27日（火）～11月9日（月）

標語「ラストページまで駆け抜けて」

4 その他

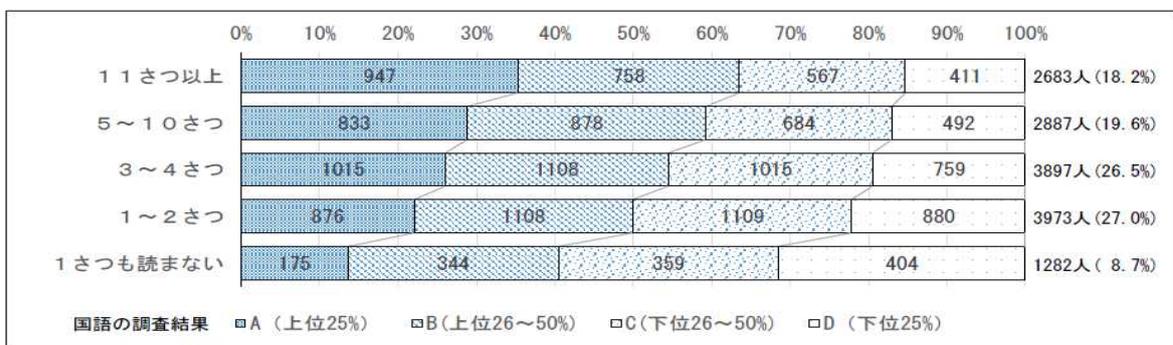
◎ 読書と学力の関係

- ・ 今年度より実施した「ふくしま学力調査」の結果により、特に国語において、読書冊数が増えるほど、調査結果で上位の児童生徒の割合が高まる傾向が見られることが報告されている。
- ・ その他、全国学力・学習状況調査（平成25年度、平成28年度）により、読書活動が学力向上（正答率UP）に寄与するという結果も得られている。

3-3 「1か月に、何冊くらいの本を読みますか」から見える傾向

縦軸『1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除きます）』
横軸『国語の調査結果』

【小学校6年生 国語】



(出典) 令和元年度（平成31年度）ふくしま学力調査分析報告書

《参考文献・出典等》

- 「第三次福島県子ども読書活動推進計画」福島県教育委員会
- 「学校図書館図書整備等5か年計画」文部科学省
- 「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」文部科学省
- 「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」東京学芸大学Webサイト
- 「新聞を活用した教育実践データベース」一般社団法人日本新聞協会Webサイト
- 「新聞社の『ワークシート』活用してみませんか？」一般社団法人日本新聞協会Webサイト
- 「令和元年度（平成31年度）ふくしま学力調査分析報告書」福島県教育委員会
- 「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」国立大学法人お茶の水女子大学
- 「平成28年度全国学力・学習状況調査」文部科学省